In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University marge to Osaka Metropolitan University

Title	井上浩一教授略歴・著作目録その他
Author	
Citation	人文研究. 62 巻, p.1-6.
Issue Date	2011-03
ISSN	0491-3329
Type	Others
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学院文学研究科
Description	井上浩一教授 ： 伊藤正人教授 ： 荒木映子教授退任記念

Placed on: Osaka City University Repository

Osaka Metropolitan University

井上　浩一　教授

略　歴

1947年９月24日　　京都市上京区に生まれる。

【学　歴】

1967年３月　京都府立朱雀高等学校卒業
1967年４月　京都大学文学部入学
1971年３月　京都大学文学部史学科西洋史学専攻卒業
1971年４月　京都大学大学院文学研究科修士課程（西洋史学専攻）入学
1973年３月　京都大学大学院文学研究科修士課程（西洋史学専攻）修了
1973年４月　京都大学大学院文学研究科博士課程（西洋史学専攻）進学
1976年３月　京都大学大学院文学研究科博士課程（西洋史学専攻）単位取得退学

【職　歴】

1976年４月　大阪市立大学文学部助手
1979年４月　大阪市立大学文学部講師
1982年４月　大阪市立大学文学部助教授
1989年３月　大阪市立大学在外研究員としてアメリカ合衆国に出張、1990年３月まで
1996年４月　大阪市立大学文学文学部教授
2001年４月　大阪市立大学大学院文学研究科教授（大学院部局化による）
2011年３月　定年退職

【学界ならびに社会における活動】（学会の役職は2010年度現在）

日本西洋史学会　『西洋史学』編集委員
史学研究会　評議員
日本ビザンツ学会　会長
Association internationale des études byzantines, comité japonais　代表委員
西洋中世学会　常任委員
1994年　大阪市オリンピック基本理念策定委員会委員（1996年まで）
1995年　大阪市オリンピック招致推進会議委員（1999年まで）
1999年　大阪市オリンピック招致委員会専門委員（2001年まで）
2007年４月　大学基準協会基準委員会委員（2009年５月まで）

著作目録

【著　書】

1982年３月　『ビザンツ帝国』（世界史叢書）、単著、岩波書店、386頁
1990年12月　『生き残った帝国ビザンティン』（講談社現代新書）、単著、254頁（2008年３月講談社学術文庫として再刊、2010年７月、韓国語版刊行）
1996年３月　『ビザンツ皇妃列伝――憧れの都に咲いた花』、単著、筑摩書房、246頁（2009年12月、白水Uブックスとして再刊）

1998年２月　『ビザンツとスラヴ』（世界の歴史11）、共著、中央公論社（2009年５月、中公文庫として再刊）
2009年６月　『ビザンツ　文明の継承と変容』（諸文明の起源8）、単著、京都大学学術出版会、381頁

【訳　書】

1983年８月　『世界の教科書=歴史：ドイツ民主共和国Ｉ』、共訳、ほるぷ出版
1993年６月　M.カプラン『黄金のビザンティン帝国』、監修、創元社、188頁
2010年11月　J.ヘリン『ビザンツ　驚くべき中世帝国』、監訳、白水社、469頁

【論　文】

1974年３月　「コムネノス朝の成立――11世紀ビザンツ帝国の政治体制」『史林』第57巻第２号、70～101
1976年７月　「ビザンツ都市・市民研究の動向と課題」『史林』第59巻第４号、122～138
1976年12月　「11世紀コンスタンティノープルの『市民闘争』」『人文研究』第28巻第９分冊、39～69
1978年11月　「転換期ビザンツ社会をめぐる2つの共同研究」『西洋史学』第110号、54～62
1978年11月　「アンドロニコス1世とコンスタンティノープルの市民闘争」『人文研究』第30巻第９分冊、49～95
1979年７月　「アンドロニコス1世とビザンツ貴族」『史林』第62巻第４号、131～148
1981年１月　「コンスタンティノープルの市民闘争」『階級闘争の歴史と理論2』（階級闘争史研究会編）、135～152
1982年12月　「プセルロスとイタロス――11世紀ビザンツの精神・思想風土の変化」『人文研究』第34巻第12分冊、89～120、
1983年６月　「ビザンツとブルガリア――世界システム論からみた」『歴史科学』第92・93合併号、12～22
1983年11月　「ローマ都市からビザンツ都市へ――エフェソスの場合」『人文研究』第35巻第５分冊、80～99
1983年11月　「11世紀コンスタンティノープルの法科大学」『都市の社会史』（中村賢二郎編）、ミネルヴァ書房、217～241
1985年５月　「ビザンツ社会史をめぐって」『歴史科学』第99・100合併号、32～49
1986年７月　「11世紀ビザンツにおけるイエ・地域社会・皇帝――ケカウメノス『ストラテギコン』再考」『史林』第69巻第４号、75～101
1986年11月　「財政からみたビザンツ国家――9～11世紀」『新しい歴史学のために』第185号、1～13
1986年12月　「ケカウメノス『ストラテギコン』上」『人文研究』第38巻第13分冊、25～57
1988年12月　「ケカウメノス『ストラテギコン』中」『人文研究』第40巻第10分冊、57～82
1989年２月　「7～12世紀のビザンティオン軍制――比較史のために」『古代文化』第41巻第２号、1～7
1989年３月　「皇帝賛美と皇帝批判――ビザンツ皇帝論の再検討のために」『国家――理念と制度』（中村賢二郎編）、京都大学人文科学研究所、41～85
1990年　"A Provincial Aristocratic Oikos in Eleventh-Century Byzantium", *Greek, Roman and Byzantine Studies*, vol. 30～4. pp.545～569.
1991年10月　「ビザンツ帝国の国制と社会」『歴史評論』第498号、37～50（『比較国制史研究序説』（鈴木正幸他編）、柏書房、1992年12月20日に収録）

1993年４月　「ビザンツ帝国における古典文化の復興」『ギリシア文化の遺産』（藤縄謙三編著）、南窓社、137 ～ 164
1993年４月　「ビザンツ帝国の滅亡とギリシア文化のゆくえ」『ギリシア文化の遺産』（藤縄謙三編著）、南窓社、191 ～ 219
1993年４月　「遺言状からみた11世紀ビザンツ貴族のイエ」『家族・世帯・家門』（前川和也編著）、ミネルヴァ書房、96 ～ 124
1993年　"The Rebellion of Isaakios Komnenos and Provincial Aristocratic Oikoi", *Byzantinoslavica*, vol. 54 ～ 2, pp.268 ～ 278.
1994年５月　「ビザンツ貴族の家文書」『西洋中世の秩序と多元性』（関西中世史研究会編）、法律文化社、115 ～ 135
1994年12月　「第2ブルガリア王国の成立」『人文研究』第46巻第12分冊、59 ～ 81
1995年10月　「11 ～ 12世紀のビザンツ貴族――『文官貴族』『軍事貴族』概念を中心に」『公家と武家――その比較文明的研究』（村井康彦編著）、思文閣出版、307 ～ 329
1997年３月　「10 ～ 11世紀コンスタンティノープルの公証人」『ステイタスと職業』（前川和也編著）、ミネルヴァ書房、218 ～ 241
1998年４月　「ビザンツ専制国家体制の確立と皇妃コンクール」『王権のコスモロジー』（水林彪他編著）、弘文堂、308 ～ 338
1998年５月　「都市コンスタンティノープル」『岩波講座世界歴史』第７巻、岩波書店、109 ～ 130
1998年12月　「ビザンツ年代記の作成過程と史料的価値」『人文研究』第50巻第11分冊、33 ～ 73
2001年12月　「11世紀ビザンツ帝国におけるイエの成長と国家構造の転換」『人文研究』第53巻第２分冊、33 ～ 54
2003年３月　「アンナ・コムネナ『アレクシオス伝』」『人文研究』第54巻第２分冊、87 ～ 113
2003年11月　「ビザンツ帝国と『ヨーロッパ･アイデンティティ』」『歴史としてのヨーロッパ･アイデンティティ』（谷川稔編）、山川出版社、72 ～ 87
2005年３月　「ビザンツ帝国の時代」『ギリシア史』（桜井万里子編）、山川出版社、143 ～ 214
2005年８月　「ローマ皇帝からビザンツ皇帝へ」『公家と武家の比較文明史』（笠谷和比古編）、思文閣出版、191 ～ 204
2006年３月　「コンスタンティノープルと聖遺物」『都市文化研究』第７号、2 ～ 19
2006年　"The Adventus Ceremony of the Image of Edessa and Imperial Legitimacy", *Orient*, vol. 41, pp.21 ～ 40.
2006年11月　「墓所・葬儀からみたビザンツ皇帝権」『公家と武家Ⅲ――王権と儀礼の比較文明史的考察』（笠谷和比古編）、思文閣出版、395 ～ 425
2011年３月　「ビザンツ帝国の戦争――戦術書と捕虜交換」『関学西洋史論集』第33号（掲載予定）

【学会発表】（全国学会・国際学会のみ）

1973年５月　「コムネノス朝の成立」第23回日本西洋史学会大会、お茶の水女子大学
1979年11月　「ビザンツ帝国の変容と法律文書」西洋史読書会第47回大会、京都大学
1991年11月　「イサキオス・コムネノスの乱と貴族の『イエ』」西洋史読書会第59回大会、京都大学
1996年３月　「東地中海のシルクロード――古代から中世へ」国際シンポジウム「ユウフラ

テスの彼方シルクロードを辿る」、奈良県新公会堂
2001年11月　「11世紀ビザンツにおける国家構造の転換」西洋史読書会第69回大会、京都大学
2002年11月　「女性歴史家アンナ・コムネナ」史学研究会大会公開講演、京都大学
2003年３月　「ローマ皇帝からビザンツ皇帝へ」国際シンポジウム「公家と武家」、国際日本文化研究センター
2006年４月　「聖使徒教会コンスタンティヌス霊廟――墓所・葬儀からみたビザンツ皇帝権」日本ビザンツ学会第４回大会、京都大学
2007年11月　「11世紀ビザンツ貴族反乱の地域構造」西洋史読書会第75回大会、京都大学
2010年６月　「ビザンツ帝国の戦争と戦術書」歴史家協会第9回大会記念講演、関西学院大学

【その他】

1976年３月　「ビザンツ封建制と市民」『京都大学大学院文学研究科博士課程研究論文要旨』
1977年７月　「書評A.P.Kazhdan, Social'nyj sostav gospodstvujuscego klassa Vizantii XI～XII vv. (Moskva, 1974)」『史林』第60巻第４号
1978年３月　「紹介　J.M.Powell, Medieval Studies」『史林』第61巻第２号
1978年３月　「ビザンツの封建化と農村共同体」『封建制の比較史的研究』（大山喬平編、昭和52・53年度科学研究費補助金（総合研究A）研究成果報告書）
1979年９月　「書評　W.H.マクニール『ヴェネツィア』」『読書新聞』第2023号
1981年１月　「第15回国際歴史学会参加記」『歴史科学』第83号
1981年９月　「紹介　和田廣『ビザンツ帝国』」『西洋史学』第121号
1982年９月　「書評　杉村貞臣『ヘラクレイオス王朝時代の研究』」『史林』第65巻第５号
1982年10月　「訳・解説　B.テップァー『封建制の若干の基本的問題によせて』」『歴史評論』第390号
1983年６月　「批判と反省　井上浩一『ビザンツ帝国』をめぐって」『歴史学研究』第517号
1983年７月　「ビザンツ史研究の課題――渡辺金一氏の書評によせて」『史学雑誌』第92編第７号
1984年６月　「『歴史学の再生』をめぐって」『歴史科学』第97号
1984年10月　「歴史の焦点　ビザンツ帝国」『高校通信東書［日本史・世界史］』、東京書籍
1985年２月　「紹介　F.ティンネフェルト『初期ビザンツ社会』」『史学雑誌』第94編第２号
1985年７月　「パンとサーカスの終焉」『第25回婦人夏期大学講座テキスト』、大阪市立大学
1987年５月　「東欧世界の形成――ビザンティン帝国」『朝日百科　日本の歴史』55号、朝日新聞社
1987年５月　「ビザンツ帝国の封建化と官司請負制」『歴史科学』第109号
1987年５月　「翻訳　オットー・ヒンツェの日本封建制論」『新しい歴史学のために』第187号
1988年３月　「ビザンツの君主鑑――作品一覧」『比較史の観点による史料学の総合的研究』（河音能平編、昭和61･62年度科学研究費補助金（一般研究A）研究成果報告書）
1988年４月　「ビザンツ皇帝列伝（1）コンスタンティヌス1世」『プラティア』16号
1988年７月　「ビザンツ帝国」『西洋の歴史［古代・中世編］』山本茂他編、ミネルヴァ書房
1988年７月　「ビザンツ史とヨーロッパ史（歴史の探求）」『西洋の歴史［古代･中世編］』（山本茂他編）、ミネルヴァ書房
1988年12月　「ビザンツ封建制の歴史的前提」『歴史評論』第464号
1989年５月　「1988年度の歴史学界の回顧と展望――中世東欧」『史学雑誌』第98編第５号
1990年８月　「ビザンツ皇帝列伝（2）ユスティニアヌス1世」『プラティア』第17号

1991年１月　「モザイクに残されたビザンティン宮廷陰謀の歴史」『本』1991年１月号
1991年４月　「討論　歴史のなかの家族」『ユスティティア』第２号
1991年４月　「学会紹介『関西ビザンツ史研究会』」『ユスティティア』第２号
1991年６月　「一般教育科目西洋史の授業とその問題点」『歴史科学』第124・125合併号
1992年１月　「イスタンブル」『城郭都市（旅の世界史6)』朝日新聞社
1993年６月　「コンスタンティノープルへの道」『聖教新聞』11021号
1993年12月　「『ビザンツ帝国』の項目」『東欧を知る事典』（伊東孝之他監修)、平凡社
1993年12月　「1993年度歴史学研究会大会報告批判（古代史部会)」『歴史学研究』第653号
1994年５月　「1993年度の歴史学界の回顧と展望――中世東欧」『史学雑誌』第103編第５号
1994年11月　「二つの帝国――ローマとビザンツ」『クロニック世界史』（樺山紘一他編)、講談社
1996年４月　「書評　南川高志『ローマ皇帝とその時代』」『創文』第375号
1996年９月　「ビザンツのシンデレラ物語」『聖教新聞』12139号
1997年10月　「『オストロゴルスキー』の項目」『歴史学事典5、歴史家とその作品』（岸本美緒編)、弘文堂
1997年11月　「憶える歴史から考える歴史へ――レポート作成を軸とした授業」『第1回大学教育研究会の記録』大阪市立大学全学共通教育カリキュラム委員会
1998年12月　「『ビザンツ史』の項目」『歴史学事典6、歴史の方法』（樺山紘一編)、弘文堂
1999年５月　「1998年度の歴史学界の回顧と展望――中世東欧」『史学雑誌』第108編第５号
1999年９月　「ビザンツ帝国と正教世界」『西洋世界の歴史』（近藤和彦編)、山川出版社
2000年３月　「ビザンツ帝国（2）経済・社会・文化」『西洋中世史研究入門』（佐藤・池上・高山編)、名古屋大学出版会
2000年12月　「ビザンツ帝国とヨーロッパ史」『ヨーロッパ史へのいざない』NHK学園
2001年10月　「『アレクシオス1世コムネノス』他78項目」『角川世界史辞典』、角川書店
2002年１月　「レポート作成指導授業と図書館の快適性」『情報の科学と技術』第52巻第１号
2002年２月　「『イコノクラスム』の項目」『歴史学事典9、法と秩序』（山本博文編)、弘文堂
2003年３月　「比較都市史におけるコンスタンティノープル」『都市文化研究』第７号
2003年12月　「イスタンブルのビザンツ歴史遺産――教会・修道院を中心に」『歴史遺産と都市文化創造』（大阪市立大学都市文化研究センター編)
2004年１月　「『東方正教』の項目」『歴史学事典11、宗教と文化』（山本博文編)、弘文堂
2004年１月　「ローマ皇帝からビザンツ皇帝へ」『公家と武家　国際シンポジウム報告集』（笠谷和比古編)
2005年３月　「事例研究『1回生セミナー』」『大学教育』第２号
2005年３月　「『劇場国家論』の項目」『歴史学事典11、国家と文化』（山本博文編)、弘文堂
2005年６月　「ビザンツ帝国（2）経済・社会・文化」『西洋中世史研究入門・増補版』（佐藤・池上・高山編)、名古屋大学出版会
2007年５月　「2006年度の歴史学界の回顧と展望――ビザンツとロシア」『史学雑誌』
2007年５月　「『ユスティニアヌス1世の新法』他、10項目」『世界史史料集5』、岩波書店
2007年９月　「ビザンツ帝国における法の制定と周知」『近世大坂の法と社会』（塚田孝編)、清文堂出版
2008年３月　「『歴史遺産と都市文化創造』プロジェクトの総括」『都市文化創造のための比較史的研究』、大阪市立大学都市文化研究センター
2009年１月　「模擬店から大学院まで――初年次セミナーは役に立ちます」『大阪市立大学初年次セミナーのご案内』、大阪市立大学初年次教育教科会議
2010年９月　「シンポジウム　ビザンツ文明を考える、コメント3」『西洋史学』第238号（掲

載予定）

2011年１月　「イル･ハーン国へ嫁いだビザンツ皇女」『人の移動と文化の交差』（ジェンダー史叢書第７巻）、松本悠子・粟屋利江編、明石書店

【メディア授業・教材】

1996年４月　「『劇場国家』ビザンツ帝国」1996年度大阪市立大学インターネット講座（全12回）、http://koho.osaka-cu.ac.jp/vuniv1996.html#ANNNAI（個別ページは閉鎖）、1996年４月～1997年３月

2010年10月　「聖テオドシア教会――歴史都市コンスタンティノープル（9）」大阪市立大学メディア教材、https://www.portal.osaka-cu.ac.jp/ocuportal/?page_id=51667（学内限定、要ID・パスワード）（掲載予定）